

県 外 派 遣 報 告 書 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第72回関東高等学校女子バスケットボール大会	開催地	神奈川県川崎市
報告者名	大山賢史 赤羽沙耶 慶野芽以	派遣期間	平成30年6月8日(金)～10日(日)
参加者 (所属都県)	<p>本部: 渡邊整 菊地真吾 関東指名: 中嶽希美子(千葉)古畑香子(茨城)竹澤友美(埼玉)</p> <p>茨城: 武藤陽子、中山克則、坂美佑紀、根坂祥恵 群馬: 穂川苑子、小澤朋克、中島孝博、阿久沢尚夫</p> <p>埼玉: 北島寛臣、小柳幸子、藤林比登美、正木あずさ 千葉: 久保あしみ、大川尚、篠寄麻衣子、安藤俊明</p> <p>東京: 上杉侑里子、桑原一貴、加藤暁生、五十嵐菜美 山梨: 河野仁、前田菜津子、丸山淳、三沢奈央</p> <p>栃木: 大山賢史 平出剛 赤羽沙耶 慶野芽以 神奈川県審判員</p>		
【審判会議内容】			
<p>事前に今大会の参加審判員から集められた、3POを行う上での「悩み」や「うまくいかないこと」に対して、映像も使いながら一つ一つ丁寧に回答を頂いた。</p>			
<p>〈リードのローテーションについて〉</p> <p>Q: 何度か経験している中で、マンツーマンディフェンスの時と、ゾーンディフェンスの時のローテーションの仕方に違いがあるかと思えます。具体的にどのような考えで違いを理解したらよいのでしょうか？ボールサイド2という基本的原則以外に考える内容はあるのか知りたいです。</p> <p>A: ゾーンディフェンスの際のリードのローテーションはオフェンスがどこで攻めてくるのか、誰がシュットをするのか等を考えながら動く。また、ボールがフリースローラインよりもエンドライン側に落ちた時はローテーションなどブレイクファレンスの際にクルーで確認しておく。</p> <p>Q: エンドスローインの際にC(センター)側にいるセンタープレイヤーにボールが入った場合、L(リード)はローテーションをするべきかどうか。</p> <p>A: Lの基本的な考え方同様、クイックシュット、クイックパス、クイックドライブならローテーションはしない。ボールがstayするのであればローテーション。Cがボールが入る前からpickupしておく。</p>			
<p>〈ゲームクロック、シュットクロックについて〉</p> <p>Q: シュットクロックの管理については、ゲームクロック同様に通常はオポジットレフェリーが担当して、オポジットレフェリー側にプレイがある場合はテーブルサイドのレフェリーが担当になるのでしょうか。</p> <p>Q: ゲームクロックを誰が受け持つのか、あいまいになるケース(オポジットレフェリーがビジー状態なのかどうか迷うケース)の対応</p> <p>A: 基本的にはオポジットレフェリーが担当。ビジー状態の時にはテーブルサイドのレフェリーも見ておくが、クルーそれぞれが確認できる状態であるのであれば、答えを持っておく。</p>			
<p>・古畑氏 基本的にはボールサイドツウを作ることが重要。ゾーンディフェンスの際には、プレーの展開を考えながらポジションを工夫することで、逆サイドに振られることを避けることができる。また、3POでは、センターが重要な役割に担う。プレーの1つ前の段階で1歩や半歩でも動いて、ポジションアジャストをすることが大切。(次起こるプレーに対する位置取り)</p> <p>・竹澤氏 時間的感覚をどのレフリーも持つことが必要(ゲームクロックやシュットクロックの管理をする上でも)。</p> <p>・中嶽氏 クルーで決めた約束事を徹底し、それを1ゲームやり通すことが大切。</p>			

県 外 派 遣 報 告 書 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成30年度 第72回関東高等学校女子バスケットボール大会	開催地	神奈川県川崎市
報告者名	大山賢史 赤羽沙耶 慶野芽以	派遣期間	平成30年6月8日(金)～10日(日)
参加者 (所属都県)	<p>本部: 渡邊整 菊地真吾 関東指名: 中嶽希美子(千葉)古畑香子(茨城)竹澤友美(埼玉)</p> <p>茨城: 武藤陽子、中山克則、坂美佑紀、根坂祥恵 群馬: 穂川苑子、小澤朋克、中島孝博、阿久沢尚夫</p> <p>埼玉: 北島寛臣、小柳幸子、藤林比登美、正木あずさ 千葉: 久保あしみ、大川尚、篠寄麻衣子、安藤俊明</p> <p>東京: 上杉侑里子、桑原一貴、加藤暁生、五十嵐菜美 山梨: 河野仁、前田菜津子、丸山淳、三沢奈央</p> <p>栃木: 大山賢史 平出剛 赤羽沙耶 慶野芽以 神奈川県審判員</p>		
<h2>グループミーティング</h2> <p style="text-align: right;">準決勝終了後に各コート毎にグループミーティングを行った。</p>			
【目的】			
<p>担当審判員の判定の根拠や考え方、プレイの見方など、参加審判員と共通理解を図り、それぞれが次の審判活動に活かせることを目指す。</p> <p>単に間違いの指摘や非難、否定をするという場ではなく、参加審判員が、自分の考えを発言することにより、積極性と責任感をさらに身につけることを目指す。</p>			
【内容と進め方】(以下に限らない)			
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイドラインの各項目に沿って、参加審判員たちの考えや意見を発言してもらおう。 (良かったケースや、共有してもらいたい項目、外してしまっていた項目を抽出しておこなう) 2 発言されたケースについて、同様な意見を持つ人、違った見方をした人がいるかどうかを確認する。 3 担当審判員に見解や根拠を述べてもらう。 4 審判主任の見解を述べてもらう。 5 ゲームを通してガイドラインに沿った判定や運営が行われていたのかを中心に感想等をまとめる。 			
【注意事項】			
<p>コートの外から見た印象と現場での判定や見え方の違い、見間違いであったかもしれないことへの確認、見解、判定の根拠など共通理解などが得られれば良い。(解決・すり合わせができるものできないものがある。)</p> <p>審判主任と担当審判員双方ともに、出されたケースについて印象が薄く記憶に残っていないケースもあり得ることは仕方ない。</p>			

○対戦カード : Aブロック準決勝 八雲学園(東京)ーアレセイア湘南(神奈川)

○コート担当 : 小坂井郁子(神奈川) 加藤暁生(東京) 坂美佑紀(茨城)
五十嵐菜美(東京) 藤林比登美(埼玉) 赤羽沙耶(栃木)

○審判員 : CC平出剛(栃木) U1中嶽希美子(指名) U2久保あしみ(千葉)

◇ ミーティングの内容

ゾーンディフェンスの際のローテーションについて

- ・どのタイミングでローテーションするべきか。
- ・クルーで一試合どのような共通理解で行っていたのか。



センター側にボールが展開してもゾーンの場合また逆サイドへ展開されることが多いので簡単にローテーションするのではなくボールの位置、スクリーンの向き等を見てローテーションするべきか判断していた。

ブロック・チャージの場面

- ・チャージを判定されたプレイヤー、コーチへの対応



コーチに言われ質問(抗議)にきたプレイヤーに対して、タイムアウトなのでまずはベンチに戻るように促す。その後クルーチーフがコーチに状況を説明。

- 対戦カード : Aブロック準決勝 昭和学院(千葉)－明星学園(東京)
- コート担当 : 清水幹治(神奈川) 丸山淳氏(山梨) 小澤朋克(群馬)
篠寄麻衣子(千葉) 根反祥恵(茨城) 慶野芽以(栃木)
- 審判員 : CC長谷川裕(神奈川) U1武藤陽子(茨城) U2菊地真吾(本部)

◇ ミーティングの内容

○デフェンスの際のローテーションについて

どのタイミングでローテーションをするべきか。

クルーでどのような共通認識を持っていたのか。

⇒ ボールがCサイドに展開しても、簡単にローテーションは起こさない。

ボールが上(トップの方)でただ回されているときは動かずに、

ボールレベルが降りてインサイドがボールサイドに寄った時などにローテーションを起こしていた。

○ショットクロック・ゲームクロックのブザーの間際、ブザービートに対する判定について

ゲーム全体を通して、クロック終了間際のショットが多かった。

⇒ ブザー前にショットが成立していたか、していなかったかの確認をより確信を持って行う。

時間の把握とそれに対する準備。

【感想・県内審判員へ伝達したいこと】

今回は2泊審判員として2回戦とBブロック決勝を担当しました。今後インターハイへと繋がる大切な試合であることを理解した上で、怪我人が出ることがないように、クリーンな試合を心がけました。

Aブロック2回戦の八雲学園ー県立旭では点差こそひらいたものの、ディフェンシブな試合となり、八雲のビッグマンへの対応と、旭の小柄な選手の対応が難しところでもありました。またコーチとのコミュニケーションも課題であり、チャンスがあったところを逃してしまいました。せめて話を聞くなどの対応をするべきでした。今後の課題として取り組みたいと思います。

Bブロック決勝では両チームともに積極的にバスケットにアタックしていく印象をもちました。トレールのプライマリエリアからプレーがはじまり、何度かコールをしましたが、試合にマッチするものとそうでないもの、またリードプライマリーのところをコールすべきかどうか、判断が難しいところもありました。クルーとは上手くにコミュニケーションをとり判定基準がぶれないように試合を進めることが概ね出来ていたと思います。

ここ1ヶ月、様々なカテゴリーでのレフリングをしましたがでゲームにマッチしない経験をし、多くの悩みを抱えていました。何がマッチしないか繰返し映像を確認し分析することで、少しずつですが解決してきたように思います。今後も継続して取り組みどのカテゴリーからも信頼される良いレフリーとなれるよう努力し続けていきたいと思

います。
県内のゲームから関東男子、関東女子と素晴らしい試合のレフリングの機会を頂き、関係者の皆様に大変感謝致します。また、派遣に際しましてご配慮頂きました渡邊審判長をはじめ県内審判員、神奈川県審判員、大会役員に重ねて感謝致します。

大山 賢史

今回、他連盟への派遣は初めてで1泊審判員として初日に2本、1回戦と2回戦の割り当てを頂きました。栃木で開催された関東男子に引き続き関東女子も一回戦から3POでの実施でした。この3日間で審判会議やグループミーティングでも取り上げられていましたが、リードのローテーションについて改めて深く学ぶことができました。担当した試合でもマンツーマンとゾーン両方の場面があり、プレカンファレンスやゲーム中にクルーと確認しながら行うことができ、よい経験になりました。今後もこの経験を活かしていきたいと思

います。
最後に今回の派遣に際しましてご尽力いただきました、渡邊整関東ブロック長、渡邊諭栃木県審判長をはじめ県内審判員の皆様、お世話になった神奈川県審判員の皆様、大会関係者各位に感謝申し上げます。

赤羽 沙耶

私自身2度目の関東派遣でしたが、大会の全てのゲームで3POが実施されるようになったこと、また、2回戦の割り当てを頂いたこと等、今回の派遣で初めてのことも多く、よい緊張感を持って大会に臨むことができました。3POに対する不安もありましたが、今回担当させて頂いたゲームや、他の上級の方々のレフリングを見させて頂いた中で、改めてプレーに対する位置取り・アングルの確保をおこなうための「足を動かすこと(特に細かい1歩や半歩の動き)」の大切さを学ぶことができました。しかし、それを実際に実行するには、チームがどのように攻めようとしているのか等のプレーの理解や感性が必要不可欠です。

審判会議で渡邊ブロック長から「メカは精度を上げるためのもの。判定力と感性は磨くもの」とお話を頂きました。私自身、さらにバスケットに関する知識や感性を深めていかなければならないと痛感しました。今後さらに判定力やメカニクスに磨きをかけていける様、精進して参りたいと思

います。
最後に、このような大会に派遣させて頂いた渡邊整ブロック長、渡邊諭審判長をはじめ県内審判員の皆さまに心より感謝申し上げます。また、他県の派遣審判員の皆さま、並びに神奈川県の審判員・大会役員の皆さまには3日間大変お世話になりました。有難うございました。

慶野 芽以